

(4) 令和3年度に向けた「課題研究」の取組（第1学年）

<目的>

第2学年より実施する「課題研究」の実施に向けて、「課題研究」とはどのような活動であるのか理解させ、次年度につなげていくことが大切である。日々の生活や授業を大切にしながら、身の回りや世の中で起こっていること、現状にしっかりと目を向ける姿勢の育成から始めた。その中で生徒自身が気づくこと、疑問に感じるものが課題研究のテーマにつながっていく。当たり前を当たり前とせず、様々なことに常に疑問をもち、思考する力を育成する。

<内容>

今年度を実施した取組内容は、下表に示したとおりである。なお、表中に番号(①～⑨)を付したものについて、次頁以降に説明を記す。

	月日	内容	生徒の取組
①	4月当初	オリエンテーション「課題研究を始めるにあたって」	「気づきノート」作成
	在宅教育期間		「気づきノート」へ記入
②	7月8日	LHR ガイダンス「課題研究とは」 「気づきノート」クラス内交流会 「課題研究メソッド」配布	テキストを用いて学習 「気づきノート」クラス内交流会
③	7月末	LHR 夏期休業中の課題「課題研究へのアプローチ」資料配付、説明	「課題研究へのアプローチ」のテーマについて考える。
	夏期休業		課題の実施
	9月1日	上記課題の提出	
④	9月中	課題の点検、ブラッシュアップ指示	
	10月初旬	課題返却	課題のブラッシュアップ開始
	10月21日	LHR「課題研究へのアプローチ」クラス内交流会について説明、準備 「気づきノート」クラス内交流会	クラス内交流会準備
⑤	10月28日	LHR「課題研究へのアプローチ」クラス内交流会	交流会 「振り返りシート」を記入
⑥	11月4日	クラス内交流会「振り返りシート」提出	
⑦	11月11日	LHR 2年次の「課題研究」テーマ調査について	テーマについて考え、調査用紙を記入
	11月25日	テーマ調査用紙提出締め切り	
	冬期休業		冬期休業中の課題実施 「気づきノート」記入
⑧	1月～2月	新聞3紙の教室配置	課題研究に向けてのテーマ探しの一環として、新聞記事を探してみる
⑨	2月17日	LHR 次年度へ向けて	
	春期休業		「気づきノート」記入 テーマ探し

① オリエンテーション「課題研究を始めるにあたって」

本年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、入学式後1日登校しただけでその後は5月半ばまで在宅教育期間となった。新入生のオリエンテーションでは、2年次に「課題研究」を行うことに触れ、その準備として「気づきノート」を準備し、日々これを記入していくことの大切さについて話した。新聞記事を3つ選び、それを選んだ理由を「気づきノート」に記述するとともに、記事中からキーワードとなる語句を抜き書きし、その意味を調べることを在宅教育期間中の課題とした。「気づきノート」はその後のLHRでも活用し、複数回クラス内交流会を実施した。

② LHR ガイダンス「課題研究とは」

「課題研究メソッド」を配布し、それをを用いて課題研究とはどのようなものであるのかということを解説した。「自由研究」や「調べ学習」との違いなど、まずは概要を理解させ、来年度に向けて、日常を意識的に生きることの大切さを認識させた。

③ 「課題研究へのアプローチ」

夏期休業中の課題として、第1学年生徒全員に「課題研究へのアプローチ」を課し、次年度の実践に向けての準備段階の一つとして取り組ませた。その内容は、(1) 課題の設定、(2) 課題設定の理由、(3) 課題への迫り方、(4) 迫ってみて分かったこと、考えられること、(5) 迫ってみたが分からなかったこと、引き続き研究したいこと、(6) 参考文献であり、以上の内容をB41枚のレポートにまとめさせた。生徒には「課題研究」の意義や身につけて欲しい力を説明した上で、日々の気づきや、新聞記事、また夏期休業中に出される各教科・科目からの課題とも結び付け、研究課題を設定させるように指導した。また、研究課題はできるだけ「問い(リサーチクエスチョン)」の形で設定させるようにし、疑問を持ちながら情報に触れる習慣を意識させた。

④ 「課題研究へのアプローチ」の点検、ブラッシュアップ指示

第1学年の担任及び副担任で、夏期休業中の課題の取り組みを確認した。提出されたレポートは、主に以下の点に絞って点検し、付箋を用いて生徒へフィードバックした。

- ・事実と意見を分けて記入できたか。
- ・考察(まとめ)は記入できたか。
- ・出典を明らかにできたか。

生徒は教員からのフィードバックをもとに、各自のレポートをブラッシュアップし、クラス内交流会に向けて準備を進めた。ブラッシュアップでは、レポートの体裁を整えることを目的とはせず、指摘を受けた点について、余白や裏面に補足事項を記入するようにさせ、生徒自身が自分の思考過程を「可視化」できるようにさせた。

⑤ 「課題研究へのアプローチ」クラス内交流会

各クラス6名～8名程度のグループを作り、一人あたり5分前後の持ち時間(質疑応答を含む)で発表を行った。級友から違った視点での意見を貰うことで、各自の課題を客観的に捉える機会を持たせたと考える。生徒にとっては、初めての経験であったが、和やかな雰囲気で行われていた。

⑥ 「課題研究へのアプローチ」クラス内交流会振り返りシートの記入

交流会後、「課題研究へのアプローチ」に取り組んできた過程(テーマを考え出した時から今日まで)を振り返らせた。振り返りを行うことで、研究対象はもちろんのこと、取り組んだ内容

を「自分事」と認識できるようになる。そうすることで自分が本当に知りたいことが見え、次年度のテーマ設定につながることができたと考える。

#### ⑦ 2年次の「課題研究」の「テーマ調査」に関わる LHR

「課題研究メソッド」を用いて、次年度の「課題研究」のテーマについて考えさせた。その際、留意させたのは以下の点である。

- ・2年次における類型（文型、理型）選択に関わらず、幅広い分野から自分の興味・関心を探ってみること。
- ・「課題研究」のために選ぶ（安易な方向に流される）のではなく、探究心に基づくこと。一つの物事への迫り方（切り口）は複数あり、多角的なものの見方を意識するきっかけにすること。
- ・自分の興味・関心や進路選択に「課題研究」を活用する。
- ・日頃の授業で学んでいることを、発展させたり深化させたりしてみる。

これらの指導を経て、11月末に「テーマ調査用紙」を提出させた。この時点で記入したものが次年度の「課題研究」のテーマとして決定している訳ではない。ただし、「課題研究」の講座やグループを編成していく（クラス編成と並行しながら行った）際の参考資料とした。

#### ⑧ 新聞3紙の教室配置

約1ヶ月間に渡って、「奈良新聞」、「朝日新聞」、「毎日新聞」の3紙を教室に配置した。更新は毎日ではなく、3日に1回の頻度とし、一定期間生徒の目に触れるよう配慮した。気に入った記事があれば、切り取って「気づきノート」にスクラップするよう言及した。普段家庭で新聞を購読していない生徒もおり、ネット記事以外のニュースに触れる機会にもなったと思う。また、同日の記事を3紙で読み比べることで、多角的な視点を学ぶこともできたと考える。

#### ⑨ 次年度「課題研究」に向けた LHR

「課題研究」に関わる「これまでとこれから」と題し、LHR を実施した。生徒たちに場当たり的に取り組ませるのではなく、それぞれの取組が連続的な意味をもたせることができるように指導した。また前記④でも触れたが、次年度に向けた具体的準備として「気づきノート」を「研究ノート」にステップアップしていく意義等についても確認した。

#### <成果と課題>

入学してきたばかりの生徒に、来年度の「課題研究」についてイメージさせることは容易ではないと感じていたが、「気づきノート」から始めてみようかと話しをすることで、取り組みやすかったのではないかと考える。日常生活の中での「気づき」が「課題研究」につながっていくことを繰り返し話し、「気づきノート」の記入を継続していくように指導した。「気づきノート」のクラス内交流会では、級友がスクラップした新聞記事に素直に関心を向けている姿が見られた。

夏期休業で実施した「課題研究へのアプローチ」は、生徒によって内容の深さや取り組み方に差はあったが、自分の「気づき」に基づくテーマが多く見られた。また、他人の発表を聞くことで、自分を振り返り、今後の活動へのヒントを得られたという感想もあった。生徒によっては、自身の関心事を見つけられず、課題提出に苦勞する者もあった。

LHR の時間を利用して1年間取り組みをしてきたが、限られた時間の中で展開にご協力いただいたクラス担副の先生方に感謝したい。